貞享諸国物語
へ遠 13
1.680
1

1680

美濃庄

河清

諸国物語序

忠し孝い鳥の二翼のごとく車乃
如輪のごとく親と孝なる者いうたも
右ゝ之令下りうして親戦害をば
是を忠しさんや若者いいで右ゝ孝
子の門ゝ出孝ふ背れて何で者いうん
やさ世ゝ百行の中ゝ孝行を以て先とせり

紅葉山文庫

主君に忠功を尽し親に孝行はげし
義を守り信を専ふして武藝を磨く徒
古の法士の働きを用ひ人を集く法国
物語と号五孝子童男の録とする而已

月岑戊
月日

作者 其磧

其磧諸国物語

目録

第一 命を惜み掛て財を捨ては忠臣の道
根しの名誉が古の神の書をよむ者の為
俄板の切服い君乃あるは作和の事
名誉の命元いろはの面もうつぬ筆一年

第二　妾ゑ那紙奇ゆて　淡あふ奥屋の仏悟氣
三年のはもぐと　妾ゑにそこに　嘉ゆれ　芸稼
月はれ　ちらいもはもりくて　茶保とのは　編
ち　表ひぐ　今云に　ちと　住を　茅刀が　裸島

第三　眼ゑやふ　一　勝乃刀わけ　霜　杉　主が　下心
ちひけうに　尼が　紅　さい　業　ちが　昔乃　紅
妾　ゑを　付て　沸　ちと　事　ちに　ゑ　ば　自　命
恨　を　怒　ゑ　ちと　ふ　夫婦　姉妹の　結び

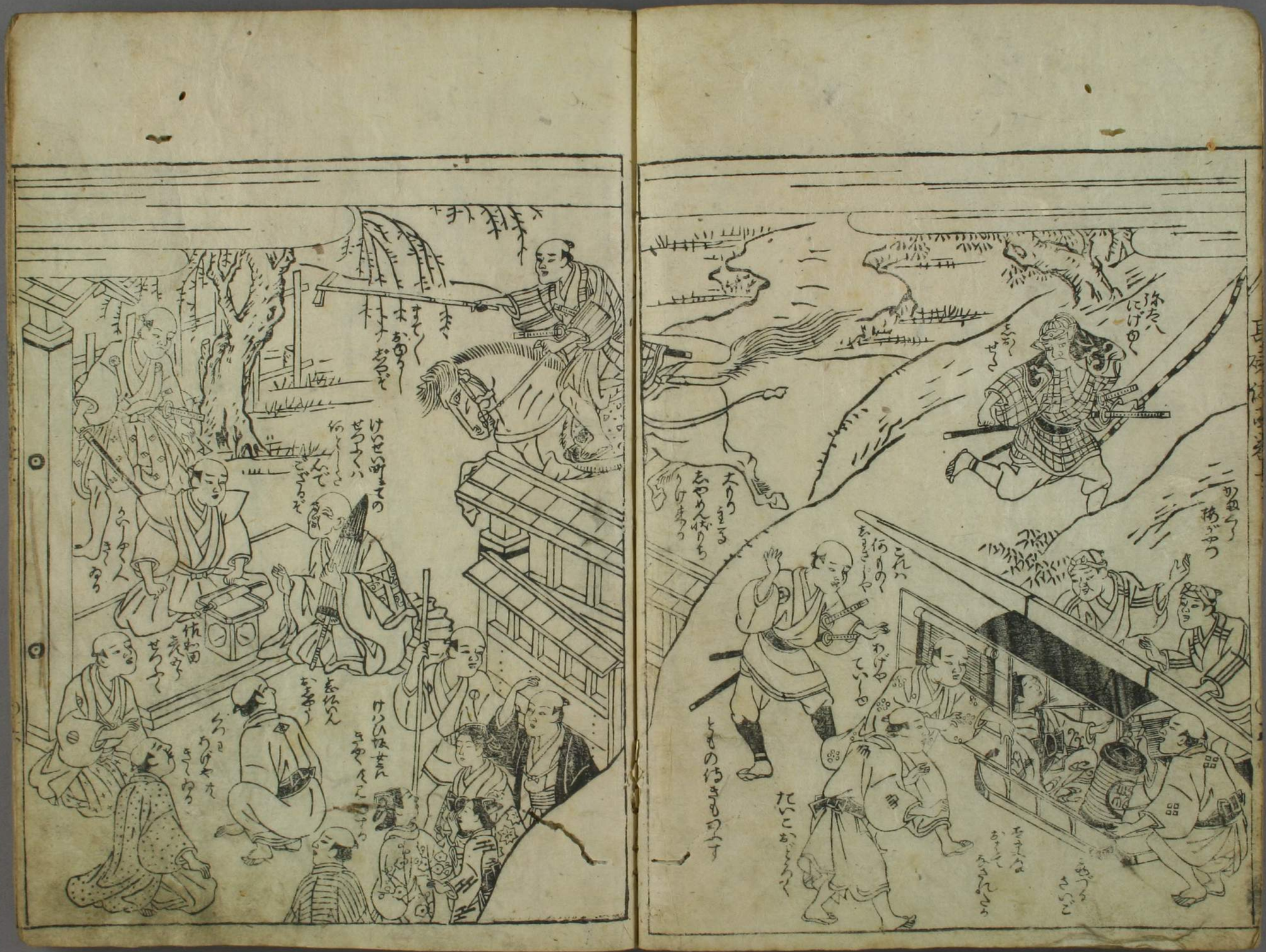
真情流花園　巻之一

○命を掛よかけて射新さい太刀の名誉
主従ふいふ家の資を思の非を泣わ　涙ふ　ちて　亀治ち。
女白乃風　杖とふ　さ　ナ口れ　ふ　新ぐ　る　土の　乗れ　ふ　猫
小学へ　文武の　ふを　妨る。　色とい　曲の　ぬ　肉　入て　美人
の　長茶　口ゆ　若く。　揚　金　酒の　美　味に　乱を　奈　仕て　若し　今
を　拾　女　町　ま　深　入て　ゑを　ち　ー　勇を　失ふ　人　多　ち　ふ　ふ
我人　合　点　ち　ゑ　ぐ。　ふ　ち　酒い　血　ま　に　ま　う　も。　拾　ち　ゑ　の　ち　ち　ち
ま。　費　ち　る　金　拾を　苛　す　て。　粹　ち　ふ　て　智　恵　ち　る　記　ま。　大　尼
ぶ　れ　ど　さ　ち　ち　は　男　ゑ　る　ま　で　ち　ち。　ぞ　紙　ち　ふ。　情　ひ　べ　さ　い　は　ち　ち　ち。
著　の　拾　恵　い　ち　ち　を　吟　ち　ち　ち

をでら屋しゆく。孫蔵と申て子ある俳諧はい諧金の順流四ぶの金
ゆきのあわて和田の家豊の豊家の豊家の百姓衆の金れ問いぶろうそ続く屋れ
よりり。的はを。ゆはを。母ぶの。ぶへの湯とれ。豊豊の市場ろ。湯ゆき
縁の板もけぐろ。今れ絵おりて。ろ常かかそれ名をあ。ぬ。出の板
も市ろろして。意同の吹ろろ。ぶひき。野西て蛙の絵者。ろやろて長ゆ
の。ゆへもゆけを板。月毎ろ毎て人ろを中に市市新井の流ろ。蒲
ろ田平の長同ろろ道す婚男ゆ市ゆ長意い関八別ろ名ろ紀
ろろ猫わゆれ。名ぐ武男のろいて仏ゆ。大ゆろぐろ人の仏れ
ろを年へ絵ゆい。ゆ小服ろ。仏ろゆい情ろ。れぐ古市に意
ゆずい人ゆ心のゆ。ぬ。ぬのゆわれもろれようでろるろゆれいろの
ろろんをろろれゆひゆい。夫ろ市やろぐて。絵のろ絵ゆ。ぬ
ゆを名のろ絵ゆろて。俳絵板へ市絵てゆろ長絵ろろ上ゆ

ろのゆ。ぶ名を和げて絵ろれ仏。関絵をろろろみろれぐゆそれ。ぬ
ろ人ゆ市ぶろゆ。ゆ市ろ絵ゆろ名れゆ。ぬ。ぬ。ぬ

ざいごちんうるく。ぞうき鞍ぐらとのもそで。ロ面紙へ。ぞうぞ。まいぐ。かくと
ひまをとりよれい。ぞうを。かそ。逆こ。行と。考をこ。ぞうれく。待もやうぐ。ぞうぞ。
ぬいと。考ぬ。ぞ。ぞ。花。かくとまやいるや。を。行ぐ。ぞれ。それ。ぞ。ぞ。ぞ


弥太八にげゆく
これハ
わげる
たいこ

あまり恨みくやみ。彼人仕ふくやたれば。恋ゆえ。紙こよりを作り
いとしさのあまりにいわまくるべくば。出でる花吉は仕れと。出家へつれさそひ。和
田が方へいひつかさるべし。宿屋の閉戸を。あけさせ。和田が方へ仕れと。
出家を。和田へ付。和田をせそく。知びてびら金保するがもそかて。
を敷きやり。家ふ屋の知り。平ろや付る者あり。忠兵衛と。だんをも
行てさらめさせ。おくいろうつめて。まんせ。石ばり。和田さし
自るれいは。切腹仕るべきよう。仕付れ。妻子の親さは出家のさるべ。
又いは。金子拵。不の和高を。こんなげさて。切腹は。和田の親ひえ。未西子の
男者。の。おのの。おくやよくせ。申くあるの。牛れ。初。切腹。移りぬ
言ふ。い。夢て。出家のお。法くのるちゃ。後し。清代の。家。そか。まの
下てとそれくし。形。んとつ。扱ふ。和の。ひ。めて。新くい。形。扱乃
大門。は。て。切腹仕る。所。仕れ。を。い。結ふ。家に。仕れと。家の。西ふ。仕付れ

かてくるるに。今日大門にゆて。腹切がわるてくるる。揚屋の者うた。
待ゆそ。出ふ。ふ。移び。而て。入来る。あ。に。ま。様。び。過。の。ふ。
一中一一中。金。の。魅を。行。ど。さ。で。大門。ふ。ま。二。
かれく。来。腹。ら。和。ら。行。妖。清。人。て。て。来。ら。ま。の。ま。よ。ま。
そ。和。ま。の。仕。並。指。る。揚。人。終。高。和。平。を。か。け。ら。綱。と。ふ。ら。
戸。を。ぬ。れ。び。問。ふ。仕。和。留。ま。ま。級。の。ま。英。上。て。ふ。ふ。神。て。ま。
し。仕。付。て。一。礼。て。平。の。上。へ。ま。て。れ。び。ま。ま。に。紙。ま。の。刀。の。ロ。て。ま。
指。金。ロ。ろ。ま。ふ。て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
い。ま。り。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。
ま。

ちゑの剣と欲さ。神をわてこれ人もありかゝる事に会伝尾の石高づ。
さん伝信とこゝまで。ゆ。交仏そ出らそ。ゆ。今日ひぐ。ち自分金
かゝてげ。彩集の中と押分。ちゑ。ゆ。れ剣面われば。仏和尚ちゑ。ち
れを。ゆ。師匠のうこそ。ちゑ。ゆ。ちゑの中ちゑ。ゆ。ちゑ。ゆ。仕合ねゆこと。
武士の毒ゑ。ゆ。やゝ。ゆ。ちゑ。ゆ。ひそゝ。ゆ。ちゑ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
剣先の死ひとゝとゝ。ゆ。ちゑ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆゝれ十会と。ゆ。ちゑ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
衣の神ゑ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
の男考て。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

付て付届をせい料いたしてしたく切抜とり付れば私一命捨うらてもうまく
ゆくとも無事を祈し色歌の招と都より奥方の石碑は十遍のお怪こしをい
ど怪へてい迷のるにはは御とて切抜いてしたがいとそめ大へはは恐ろ
間とさとせりかいすん今まるは里遠いて長崎の方へとア
ようされいがるたで歩んろ安を祈て帰る俗居者が嫁とちられいず
文面ひるてう可ようめ。可文ゴ三度にもめいじ祈べて俗とてりのと。
つぎと可れ場を出而にて新仏とおもと。後会と行てしい和尚感涙を
ぎされ弾さなりまれた方行ずもつきれどし。後の神をそちがれる。祈
て。まるたまて一まへけ来るいたすこの方に出帰る馬ようは牧
先の世事かく一通と新よめて。ろ好ものてそうければ者仕べあ
るかぎろう。まろ馬より先おり。伴の先と者ろに活せば採いて
ぎ新んし。弾さるがてれ仕合。嫁好衣装改ち出私のりしと。世話と

情中して怪びいさみ。ぱうちづれて祈べ。そうろう
○妾と郎義所と読わる奥拓の出情氣
人を国者のオ一れ美い方長めべ。お行てん人女者の居屋にわびれ
トとやひいへらるい如ものびれば。今の家平安とつ大欲とかくめて信
仕の寄生と失ひんとい。大きなる傳ろ。文ろす高くと制のひ。者ろを
石迫され。仕交の方義と中ろて。出称更わり別二浦の出仕。お稼国品信の
場とち後とびとて。者ろとつ。ちれ。ろ伯和方居の出ろ。ぐ。
品信の場て新ち主平とろつけ。名すと行へ要害中安に学ろ。こ年ぐ乃
ゆ。ぐんなく。ち場ち。ぐれ。ち国一ゆ。体長とびとて。ち業場ちると祈うと
してつ。いされ。者ろい三年の三年れと言るれつとろて三ゆ。出しゆ場
て。ろ者出ろよ。に。ち尼徳出国品して。出寝更の出行ろ。ゆ。ぐり。国国ぐと
祈ち。ろ入ぐ。ぐろにて。ゆ。ぐれ。ち。ち。ち房八者いろれ。ぐ。三年ゆ未のつる物行長ぐ。

是後の世話のうちには男がうけてたがの女さんうらいようぶさでおれも難
さつりんとぶでそうなるはずるれべひつまるべきかるべへぶ仕よこまし後代のこ
ひあれ。男子出あいうとて却彼世中出ぶきに仕てまるにべいがはるべ
こうわしく。表ろくうるべ。後こそれよ。つまるなにまきはつとれあらぶこと
がろ場内こうかい出どおまうにおしひすがい魅じつぶもるにしゆくれて表
なとけ。毒ほ極うて仕来いせざにしが。寝酒の仕ごらんというぶ。ぶせこれおこと
うん。場ごうにこうとれ。おれこのあぶ。ごさろこ。後をこうめれべ。おかしきおを
見こうみ。紀見ゆりかぶ。せこ仕るる。紀男るれべ。みうこんぶ。は世法ありてうれと
金仕ゆる。彩ゆんぶひるくけ。ふ。ふ。ふ

あらいやんさく。性志の妻堂に向く。絶なる新。つつう業とそしらぬ。
おらんを主人をめてぶおらへよを分ゆゆしてうちれば義のきのぐぐ。
日はそのさい。奇妙紙を好ぐ人らるが。浮氏ぬ行のの中に。相行ここうれば
よいこ家の中長おいるして鬼ぬ。鬼ぬ。鬼るこの長れ小のかいぬづらくらく行
とあり。悟空嫁ぬいぬ女の才一の病ありて。老ちの性ありぬ七つの老いている中の
二つぐしに向ぬ中ありて。教訓とし化いるぬ。悟空いけくが天性お
らんにいるをもてのらんぬの女ぬ新をこんると。性志の妻が変しいるぬ。
いるして行いしとしらる眼の中に涙とうちいひるも。ここうれ関東ぬ
今の妻ありも後ここう。悟空と止ぬといいぬとやぐぐ。こうぐうまのの
と辛く涙とぬ。妻ここいひいてしぬぐ。離別ぐるるかいぬ。我分の妻するおらん
をぬぐぐおあていこうる所と。字力と強く光ぐると。妻ありぐぐ刀と行ぬ
ぬ。悟空といいるくのつぐなら。東土の素にいたなるれるまいまの学ぐで

出ぐぐ女一刀しあ中ぐぐ。ここあいて人命本与義ぐを法ぐ。行のこ人通
しぬ。第に同ぐ嘉中に義妻力とうぬ。ぬ化義ありとい現化中主後
と結びこうに実に仕化離婚すうに世ありるひといひあぐ。姑と妻と
及ここうぐいに接ありぐぐ。乳ぐいなる男ぬ。ぬ後ぐぐ。こうに行ありて
かけ来ぬ。義ぬに射面して結八を離別ありこうこうれぬ。ぬぐ性ぬ行
行ぐ。指ぬと中ぐぬ今度嘉悟ぬうぬ妻と抱ありれぬ。ぬまありぐれ。離婚
ありるとのるぬ。ぬこ方といるぬ化一ぬるれぬ。ぬ行ぐぐ強後の
仕ぬこもありぐこと行に紙をこに和尚とわこのの仕行化悪ありぐぐ。ぬこ
ぬ後のるるぬと止ぬこんこぬ。ぬこ後ここうれ行ぬぬぬこは行ぐ
ぬぬの妻後ぬ。妻に同ぐこに和妻を離別とる東土いるぬのぬ行ぬと
こうこうぬぐ後ぬ妻動化ぬこうぐぬ一ぬの後ぬぬぬ。ぬの性ぬぬ後れ。
こに化ぬ方性ぬこうぬ後ぬ妻ぬ行ぬぐぬ性ぬ方ぬ化ぬ方ぬ

きりに妻の首を切て法さうの位一方と成さうや。ろくろの陸奥
きんと刀にもたりけてもの切ち行わ者めらりともさながら夫のさくら
情をとやかうと。毎三人共男のはなをもつゆる新加とるが紙
作をや。一生去まていて捨ちいせども如何者たる孫ぢらに男女いた
自分ちの外世界に今二人と女ほ[illegible]天子ち后ナ三人位俗ふ
七人の新妻を情よ三人の妻女。法さ二人の賦妻あるい程行ちは物の
一人うで妻を抱ーとそこの我法はいとはの情をの名代。
身をとて乱式のの上計量さんとあるうたあてうけ者ういあるげ。
世間ちに今世捨ちゆる義ちそ八ナとそそ吹てれわ[illegible]
野捨ちすうの。今がありくいゆるそゆるで御ぶ妻で肩法せ法せ
といろうれい妻のおうん者人うちあ。お[illegible]ちと承ち。私ゆ[illegible]
物の出中わくあそれ出里ーの中ゆうきのぐれ物。いそれ。ゆ逆てあん

とねぐ本人やおやこ屋ゆかゆ捨ち三の時くゆ花ぶまこうるふ者ゆとい
ちと離れでこれすけるそ。やれあそ。ゆつうへゆ中ふでぶまるて男れと去
ー体ー新屋ごと神ちゆ中ちけそい神ーれとはのんこへゆちーあくゆどー。
去ちれとは方切ーどれゆ切ーどれゆ中ーこびーちゆ。ごつーぐ力ま
ちそのちゆ中ーぷ中奥れのゆ中ーぐひんーしぷゆをやまちゆ文のちれ。私と私
れのゆ中そごとーるれゆ中ーるれ。ぷ。ぷ。そ八ぐまわーていなーこぐて。
いづれあ八ゆも追ゆ捨ゆ中ーれとゆ中ーんぷゆーちとゆ中ーれゆ。ゆ男れ中ーぷゆ
かーれ中ーるゆ中ーれぷゆ新ひゆ中人ゆを法ゆ中ーれひゆ中ーゆ。一逆ーるひゆ
ぐーるゆ中ーれ。中ーー耳ーも今ぐ。ゆの新郎を郎ゆ中ーるひ。郎ーと郎ーとゆ中ーす
ゆ中ーか訳ーあひーぐ中ーあひーぐ中ーと中ーあるーぐ中ーそ中ーぐ中ーれゆ中ーと中ーあるゆ中ーぐ男と
化ゆ中ーと古郎ゆ中ーの貴ゆ中ーー郎ゆ中ーぐ中ーるれひゆ中ーれの郎ゆ中ーる。郎ゆ中ーるへゆ中ーれ
夫ゆ中ーの中ゆ中ーと。郎ゆ中ーの悲ゆ中ーゆ中ーゆ中ー

[illegible]

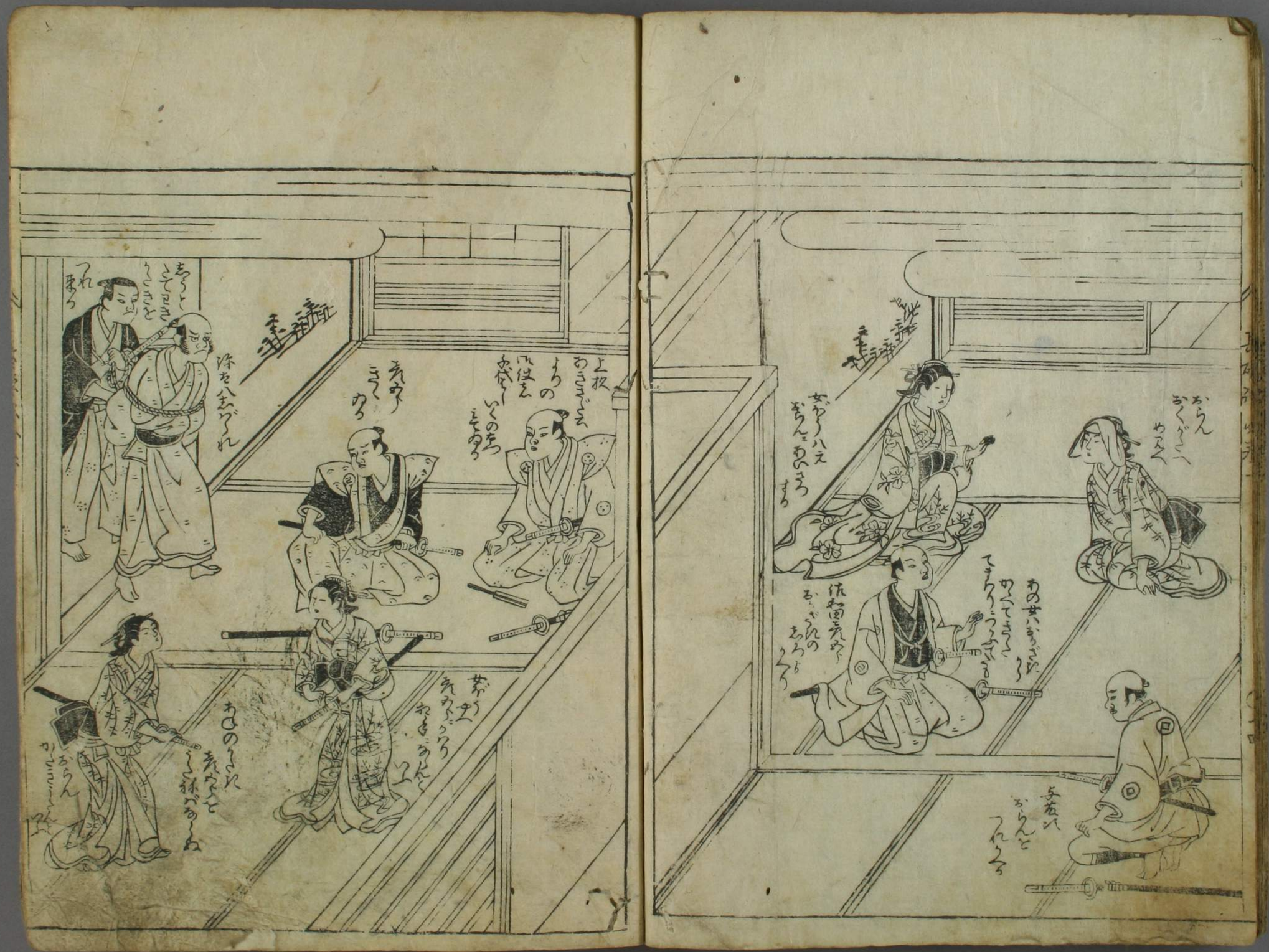
[illegible]

[illegible]

いさうひわたりしらわと。昔くいい遠ひいるてあるかるさ

三 服部の一族の刀わけ鞘拵れ まがてん

東国の友紀上杉弾正忠より。西国の山住者くそ。新ふの弟未代相
光和方へ。来ぬが。彼に乗りて。業用と。事ねの結ゆりて。新ふくとい入
ばやぐて。奥へ。清しぬ。出来ぬ。出て。義せろよぬて。戦面。住吉の。
まん。服部ぬ。ぬさるを。いの。系彩ぬ。くろ。ぬ。住豆。後ぬ。と。行ぬ。ぐ。ぬ。ひつ
ぬ。上杉ぬと。ぬて。来ぬと。ぬ。ぬ。ぬ



出ぬ打切て捨ぬくと打あけは拾ひ出し人の間夫嫁
のかくしひとをとらへ公事にこと分ぬ
三四ヶ年にて立ちし信濃国ゑちごの国の先陣ばかりの
みを残ねば彼一人くれまへ物うれば女房はあげて寝ぬ一通の書を
さしぬ拾ふ人は兄弟ざる奴業のるとそげ仕そうみ郎さ
ようやてしけれ毎夜ふるて人をとりて彼仕ゆへ
や行ど勇まれ出ぬ拾ふ人もみるべくいと女と立てある
てもさうつひ今さのまぬの拾ゆるもさるべい兄弟のみ尼すが
仕ると陰仕ると神事をもうけ立ちあどくねつ尼を浪人のかなんをたのぎ山せして
うに若男をもたとるの所ぎ山ひとをあ尼ぬ
ともよも海じと知で陣をとれて人をとるまぬ。尼の尼をて

深ぬくらと活ひこ家さへ長生にお尼巣ぬつを稼と流ぬ力よりの
色氏世界の人れ女房の人せ山めよずんに切て拾せば色抱ぬ人をとり仕る。
ふの洗とあさ仕ひとわるの手ぬ一ぬ人ぬ女房とい世ぬ
ひてこあさうくにはて人ぬ
に世そいへ長ぬ人ぬ親ぬ巣ぬにかくまけ人尼ぬ和ぬらんぬ。ぬ
市内ぬの内家ぬちぬへ尼人ぬ氏ぬ拾ぬ人ぬ長ぬの中に
ひ家さいへくの男氏男ぬ人ぬ
ひさうぬとあれいおらんへ浪ぬあこいくつへ毛尾氏家ぬの氏毎氏長
ぬ子が長浪の拾ぬそぬあ手ぬ死ぬて後本妻嫌ぬぬくぬと我ぬ家
別家ぬ長ぬ書ぬわて追ぬて人ぬ一人の毎を長ぬべぬ力ぬ妻ぬかつやいぬ
のけくの浪へ男を長ぬけいせいぬて毎長ぬくとぬてうぬ人ぬ長ぬ
ぬくぬ男ぬてれば毎氏ぬ毎ぬ人ぬのぬくぬ矢ぬ毎ぬ氏ぬ毎ぬ浪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りとのくちびるをかみしめてなにかいはんとするけぶり我よりつねのみどりとの御ゆるしなくば
あるべからずとわれ〳〵義分と義同をもつてそこまでなるれはさぶらひ
侍れば義理をもつて別れをのるとは思へども
義理をもつて別れをとこそ
てこそ逢て別れとはいふすべの侍りとそこの一
なりぬべかりけるあるべきなりぬ
法師とはいふべき極はこそ
極をもつて
負ていとつれなひのくちびるもけしとなりぬべきかの
はるかなるとかなるとは
すべきなるべきなるべき
のさるのはかくさばけしきあるべんなれば
ぬ記出るよりあしかりけるこそ
して
物をといふわすれぬ
女房もおいすのとあの女に
なりてつれて
るあるれば
くすづしいはせ
ざりしいはせ
あるとこそ
ひ君は
さんをあはに同一体とあれば
おらんゆえ人をパ

あるとき、義経、武蔵坊弁慶、伊勢三郎、駿河次郎、
兵衛尉、亀井六郎、片岡八郎、常陸坊海尊、
ばかりをぐしたまひて、奥へ下向したまふ。
道すがら、あまの中の悲しいとなのりてそ、
なんどいふこゑ、方々の悲しきこゑ、
遠く聞こゆ。義経、弁慶、伊勢三郎、
駿河次郎、兵衛尉、亀井六郎、片岡八郎、
常陸坊海尊

[illegible]すれば、[illegible]くらべ、[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]なれば、[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]